

科目名		技術経営論(Management of Technology)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	経営情報学科	学修	1単位	選択	講義	前期 100分/週	45時間		
担当教員		【常勤】根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術経営の必要性和各国ごとの特徴を理解することができる。</li> <li>・技術経営の基礎事項について覚えることができる。</li> <li>・技術経営の適応可能性について指定の事例ごとに説明できる。</li> </ul>								
学習・教育目標	(C)②	JABEE基準1(2)							
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目									
教科書	参考書をベースとしたレジュメを配布する								
補助教材等	雑誌記事・新聞をベースにした資料を配布する								
達成度評価(%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
	総合評価割合	30	40		25	5			100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	◎		○	○				
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○	◎				
汎用的技能 【論理的思考力】				○	○				
態度・志向性(人間力) 【主体性】					○				
総合的な学習経験と 創造的思考力 【創成能力】	○	○		◎	○				
学習上の留意点および学習上の助言									
<p>技術は企業の競争優位や持続可能性に直結している。本講義においては技術そのものよりも、技術の活用方法について議論することが中心となる。しかし、なるべく理解しやすくするため、事例や映像を多く用いる。</p> <p>試験は基本事項の確認が中心であり、レポートや小テストはそれをいかに応用するかがポイントとなっている。相互補完性があるので、双方手を抜かずに準備を進めておくことが望ましい。</p>									

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	講義紹介	講義の進め方、評価方法について理解する。	(復習) MOTの概略についてレジュメを元に見直しておく。
2	日本のMOT	日本のMOTの特徴と強み、弱みを理解する。	(予習) 各国の経営に関する基本情報や有力な企業について調べておく。
3	アメリカのMOT	アメリカのMOTの特徴と強み、弱みを理解する。	(復習) 国ごとの違いとそれが生じる背景を理解すること。
4	アジアのMOT	アジア諸国のMOTの特徴と強み、弱みを理解する。	
5	技術の獲得方法と『関門』	企業の技術獲得手段と獲得した技術を市場に出すまでの「関門」それぞれについて理解する。	(予習) 講義の前提となるサプライチェーン、戦略論、マーケティング論について見直しをしておくこと。
6	技術戦略	競争優位の獲得に向けた技術の活用について戦略論の観点から考察することができる。	(復習) 研究テーマに関する企業、産業への適応可能性について検討すること。
7	マーケティング	MOTの観点からマーケティングの実施方法について理解し見解を述べるができる。	
8	中間試験		
9	組織構造とマネジメント	技術を活かすための組織構造とそのマネジメント方法について理解する。	(予習) 組織論について見直しておくこと。
10	知的財産管理	知財の管理における特徴と留意点を理解する。	(復習) どのような場面で知財や組織管理が必要になるのか、研究対象企業・産業に置き換えて考えて述べること。
11	新技術と倫理的課題	技術活用における倫理的課題において、どのようなことが課題とされているのかを理解するとともに、それに対する独自の見解を示すことができる。	(予習) 国際経営論および技術者倫理に関して見直しておくこと。
12	技術移転と海外研究開発	広く国内外で活動する企業内で技術がどのように移転され活用されていくのかを理解する。	(復習) 講義中に出た課題について独自の見解を述べること。
13	学生による発表①	各自の研究対象産業もしくは企業におけるMOTについて整理し課題を見つけ独自の解決策を示すことができる。	(予習) 決められた条件に従い、発表の準備をすること。
14	学生による発表②	各自の研究対象産業もしくは企業におけるMOTについて整理し課題を見つけ独自の解決策を示すことができる。	(復習) 発表後指摘された事項や他の報告者の発表を聞き、自分の発表内容を修正すること。
15	まとめ	試験の解説を通じ間違いを修正すると共に、特に論述に関する理解を深めることができる。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間